

山陽学園大学・山陽学園短期大学における 教学IR の取り組み状況について

2024（令和6）年9月11日

山陽学園大学・山陽学園短期大学
I R 推進室長 小林 章人

With navigators



おしえ・まなぶ 匿名希望

1 大学におけるIR・教学IRとは何か

IR って何？



この話、3回目です。
くどくて申し訳
ありません。

Institutional Research

訳語：機関研究、大学機関調査研究など

- 高等教育機関において、機関に関する情報の調査及び分析を実施する機能又は部門。
- 機関情報を一元的に収集、分析することで、機関が計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことを可能とさせる。
- また、必要に応じて内外に対し機関情報の提供を行う。

※出典：教学マネジメント指針（2020.1.22 中央教育審議会大学分科会）用語解説



組織の形態や担当する業務は、大学等によって多種多様



教学IR：IRのうち教学に関する部分で教学マネジメント
を支える基盤の1つ

2 山陽学園大学・短期大学におけるIR推進室の業務



IR推進室の主な担当業務は次のとおり。
手広く、いろいろな仕事をしています。

- 大学改革のための各種データ収集・分析
- 各年度の事業計画等の策定とPDCAの推進
- FD・SD研修会の企画・実施
- 学生やOC参加者対象の各種アンケート調査の結果分析
- GPA等教務データと他のデータを関連づけた調査・分析
- **教学IRによる教学マネジメントの支援（基本方針も所管）**
- テーマを設定したIRレポート（教職員向け）の作成・発信
 - 学修行動と学生生活へのコロナ禍の影響を探る！（2021）
 - 本学におけるオンライン授業の評価と課題(2022)
 - 新たな学生募集戦略の展開(2022)
 - 2023年度卒業生の成長実感と満足度(2023) など



年々仕事が増えている
んだよね。



今日は、
教学IRを深掘りします。

3 教学マネジメントとは何か①（指針の概要版）

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

教学マネジメントとは

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

教学マネジメント指針とは

- 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営（＝教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営）の在り方を示すもの。
- ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要と考えられる取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

「大学全体」レベル

三つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」（DP）、「教育課程編成・実施の方針」（CP）、「入学者受入れの方針」（AP））

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

「学位プログラム」レベル

「授業科目」レベル

IV

教学マネジメントを支える基盤
(FD・SD、教学IR)

I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ✓ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DPを具体的かつ明確に設定

II 授業科目・教育課程の編成・実施

- ✓ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- ✓ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- ✓ 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる

追補 「入学者受け入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

- ✓ 入学段階で身に付けていることが求められる資質・能力等や、評価・判定の方法・基準について、「入学者受入れの方針」に具体的に示す
- ✓ 入学者選抜が求める学生を適切に見いだすものとなっていたか、点検・評価を実施し、その結果を踏まえてAP等の見直しを実施

III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保

- ✓ DPIに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- ✓ 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- ✓ 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

V 情報公表

- ✓ 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- ✓ 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要

各取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度（アセスメントプラン）に則り、大学教育の成果を点検・評価

社会からの信頼と支援

積極的な説明責任

4 教学マネジメントとは何か（指針の要約）

- 教学マネジメントとは、大学が学修者本位の教育の実現に向けて、教育目的を達成するために行う管理運営であり、内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- 学長のリーダーシップの下、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

三つの方針（ポリシー）

「卒業認定・学位授与の方針」（DP）
「教育課程編成・実施の方針」（CP）
「入学者受入れの方針」（AP）

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

IV 教学マネジメント I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

II 授業科目・教育課程の編成・実施

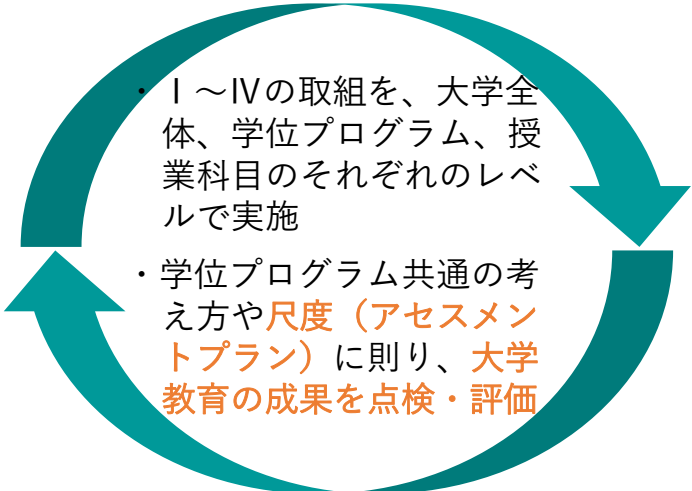
追補 「入学者受け入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

III 学修成果・教育成果の把握・可視化

を支える基盤（FD・SD、**教学IR**）

積極的な
説明責任

V 情報公表

- 
- ・ I～IVの取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施
 - ・ 学位プログラム共通の考え方や**尺度（アセスメントプラン）**に則り、**大学教育の成果を点検・評価**

社会からの
信頼と支援

5 本学独自の教学マネジメント基本方針の策定



なんか理屈っぽくて難しい話ですね。これを全部やらないといけないんですか？



この指針はマニュアルではないとされています。なので、本学では、次のような考えで、**本学が実施できる取り組みを進めることにしました。**

- 指針では、**学修者本位の教育への転換**に向け、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものとされている。
- 本学が2024年度に受審する認証評価において、教学マネジメントの機能性（①学長の適切なリーダーシップの確立・発揮、②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築、③職員の配置と役割の明確化など）が求められている。
- このため、**本学の特性と実情を踏まえた、実施可能な教学マネジメントを構築するため、本学独自の教学マネジメント基本方針を策定しました。**
(2023年3月22日)

6 基本方針に基づいて何を行うのか



基本方針に基づいて、結局、何をするんですか？

学生の**学修目標**を定め、その達成のための**教育内容を編成して実践**。それを**点検・評価して改善**することが大まかな流れとなっています。



【基本方針のポイント①～ 教育目標・教育内容の編成】

1 教育目標等

学生本位の教育を基軸とする人間教育によって育成する人材像を記載

2 教育内容の編成

(1) **ディプロマ・ポリシー(DP)**を**学修目標**として設定

(2) 目標は、原則としてループリックを活用して、「○○できる」の形で記載

(3) **DPに基づいて策定されたカリキュラム・ポリシー(CP)**に従って**カリキュラムを体系的に編成**

(4) **カリキュラムの編成**にあたっては、**3つのツール（マップ、ツリー、ナンバリング）**を活用して**体系を明確化**

(5) **個々の授業科目**は、それぞれの到達目標を設定した上で、講義、演習、実験、実習などの授業形態を適切に組み合わせながら、**体系に沿って過不足なく開設**

7 学修成果・教育成果の評価



学修成果の評価
は簡単ではない
と思うのですが。
どうすればよい
のですか？

そうなんです。学修成
果・教育成果の評価を
どのように行うのが良
いか、これから、**まだ
まだ検討していかなけ
ればならない**と思っ
ています。



【基本方針のポイント②～評価とアセスメント・プラン】

- 山陽学園大学・短期大学では、教育内容の点検に併せて、**2022年度に策定したアセスメント・プランに従い、次の項目を含む学修成果・教育成果を評価するとともに、可能なものについてはその可視化を進めること**としている。
 - ① GPAによる成績評価及び単位認定が適切になされているか。
 - ② 授業科目の到達目標はどの程度達成されているか。
 - ③ **学生の成長実感・満足度はどの程度か。**
 - ④ 学生の進路（就職率や就職先）は教育内容を生かしたものとなっているか。
- アセスメント・プランは、教学マネジメントを推進する中で、その精度をより高めるための見直しを不断に実施する。

8 学生アンケートの結果（成長実感）を教学IRに活用する

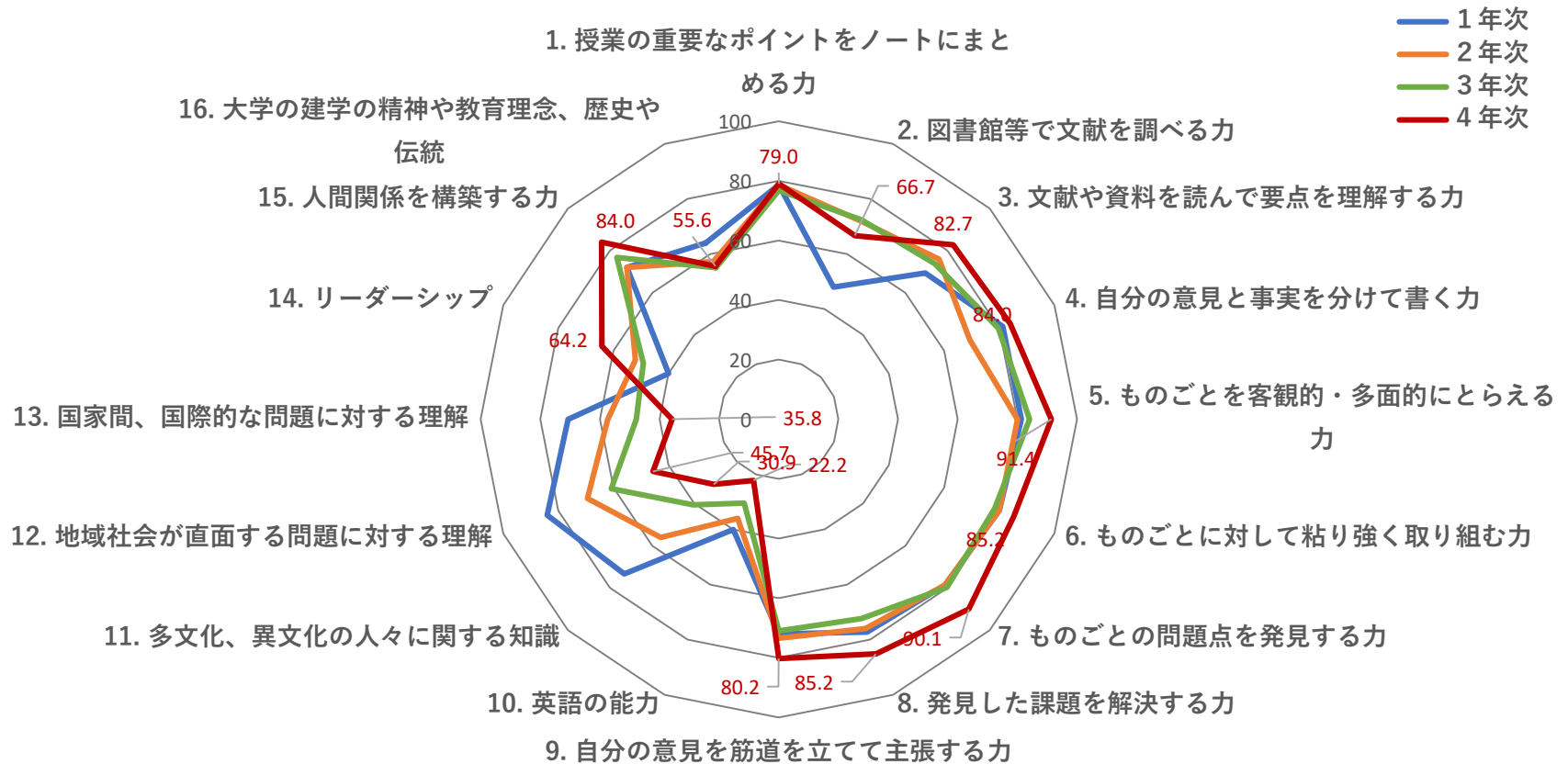
- 
- 山陽学園大学・短期大学では、毎年度、全在生を対象にアンケート調査を実施。
 - 2023年度の回答率は、大学・短期大学全体で96.6%で、毎年度、**安定的に高い回答率を確保**できています。
 - また、調査を積み重ねた結果、2022年度卒業生から、**コホート分析も行える**ようになりました。
 - その中の**成長実感の項目が、教学マネジメントで活用できるのではないかと**思っています。
- ✓ 右表の項目について、次の4つの選択肢から1つを選択
①伸びた、②ある程度伸びた、③あまり伸びなかった、④伸びなかった
- ✓ 今回は、回答中で①+②が占める割合を集計しています。

成長実感の項目

- | |
|-------------------------|
| 1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力 |
| 2. 図書館等で文献を調べる力 |
| 3. 文献や資料を読んで要点を理解する力 |
| 4. 自分の意見と事実を分けて書く力 |
| 5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力 |
| 6. ものごとに対して粘り強く取り組む力 |
| 7. ものごとの問題点を発見する力 |
| 8. 発見した課題を解決する力 |
| 9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力 |
| 10. 英語の能力 |
| 11. 多文化、異文化の人々に関する知識 |
| 12. 地域社会が直面する問題に対する理解 |
| 13. 国家間、国際的な問題に対する理解 |
| 14. リーダーシップ |
| 15. 人間関係を構築する力 |
| 16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統 |

9 成長実感から見えること①（コホート分析）

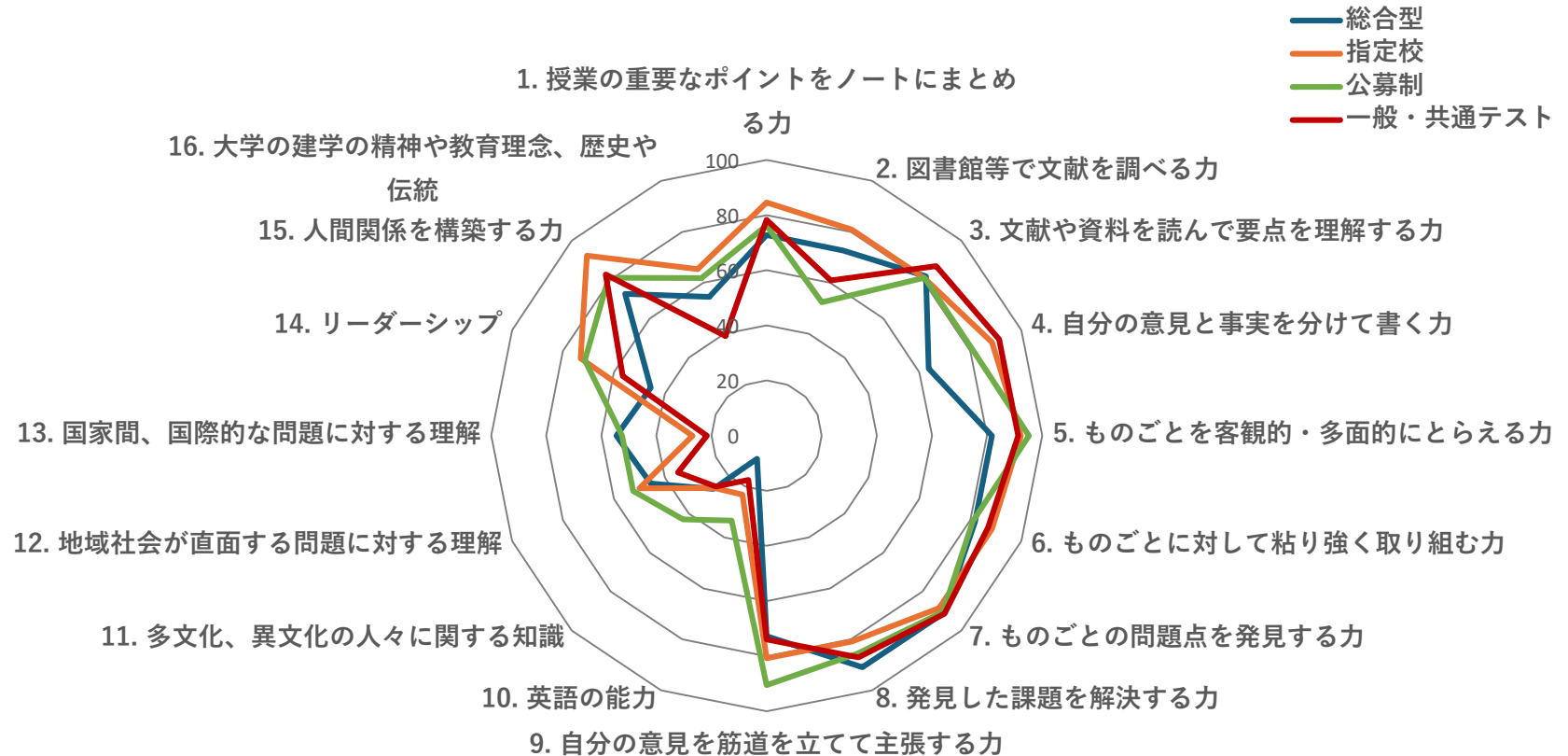
学生の成長実感（A学科2023年度卒業生・コホート分析）



昨年度、実験的にお示しましたが、本格運用が始まり、**2022、2023年度の卒業生**については、各学科別にこの資料を作成し、共有しています。

10 成長実感から見えること②（入試区分別比較）

学生の成長実感（A学科2023年度卒業生4年次・入試区分別）



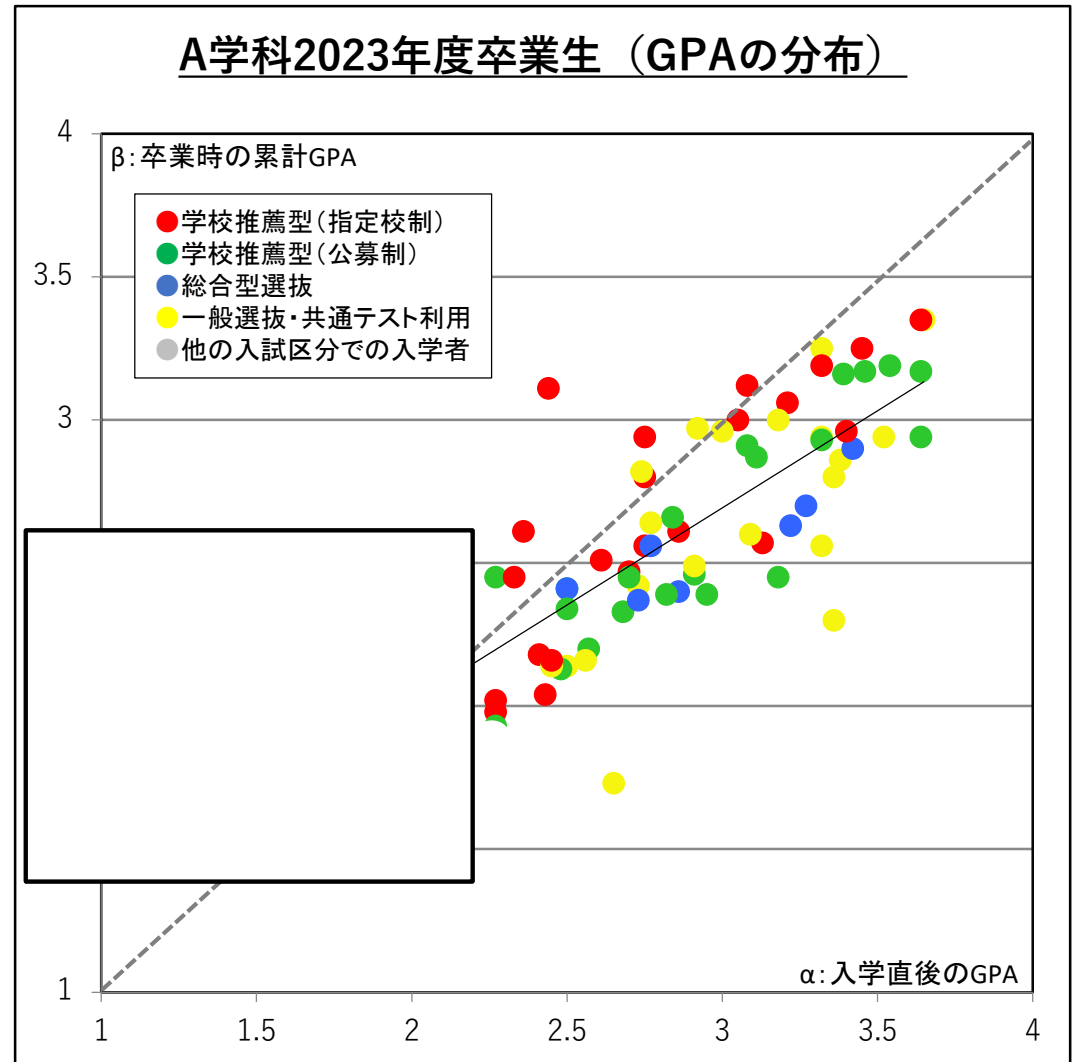
- 今回、初めて入試区分ごとでの成長実感をグラフ化しました。
- 項目ごとでバラツキがありますが、全体として顕著な差があるとは言えず、指定校がやや高く、総合型がやや低い傾向がある程度でした。

1 1 GPAの分布と変動の「見える化」



こちらでも昨年度、新たな分析方法として紹介しましたが、**2023年度から本格的に運用を開始し、各学科分を提供しています。**

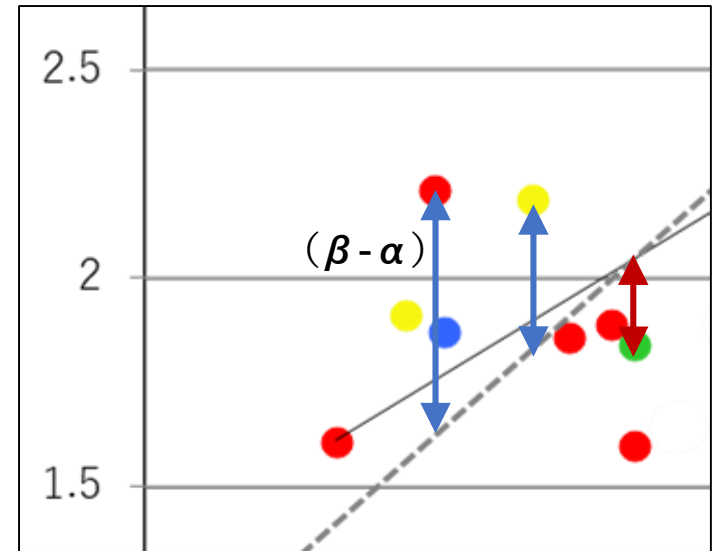
- 横軸を入学直後のGPA (α)、縦軸を卒業時の累計GPA (β) とし、各学生の状況をプロットすることで、**学生のGPAの変化を「見える化」**したものの。
- 点線（45度線）より上の学生（ $\beta > \alpha$ ）は成績が向上、実線（回帰直線）より上の学生は、このコホートの平均モデルと比べ、成績が向上していると言えます。
- また、GPAデータと入試データを連動させることで、**入試区分ごとのGPAの分布と変動も「見える化」**しています。



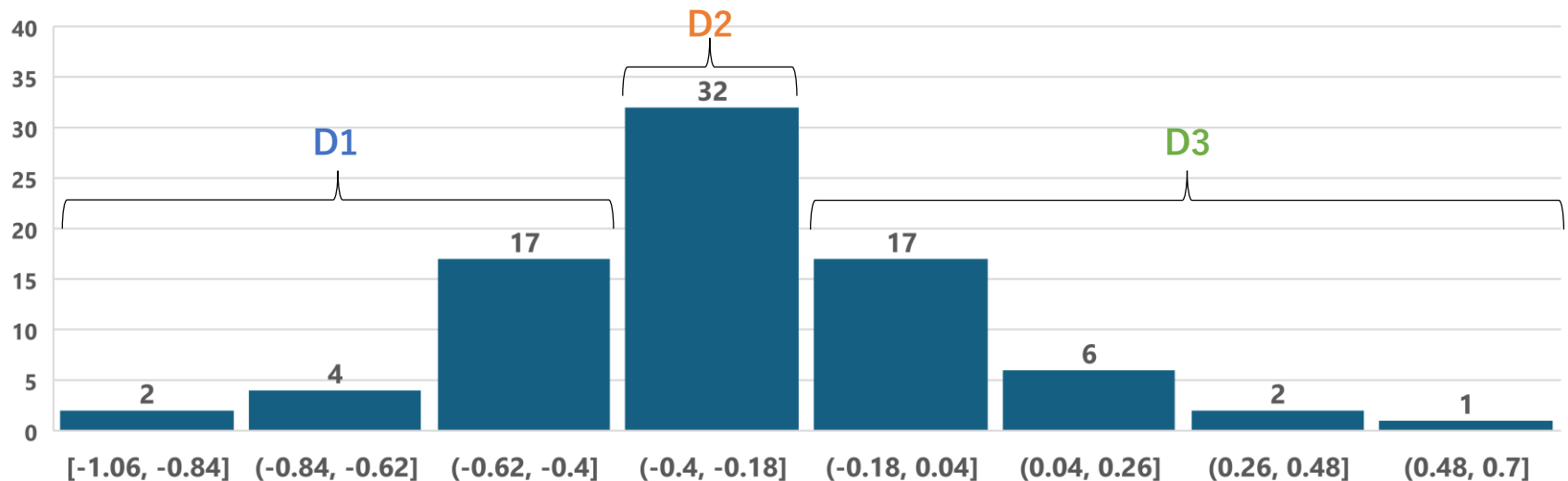
1 2 GPAと成長実感の関係を探る（新たな分析）



- 今日のテーマは「深掘り」なので、もう1つ新たな分析をやってみようと思います。
- 卒業時の累計GPA (β) と入学直後のGPA (α) の差の分布を調べて、アンケート回答者をD1~D3のグループに分けてみました。
- グループごとで違いがあるでしょうか？



卒業時の累計GPA (β) と入学直後のGPA (α) の差 ($\beta - \alpha$) のヒストグラム

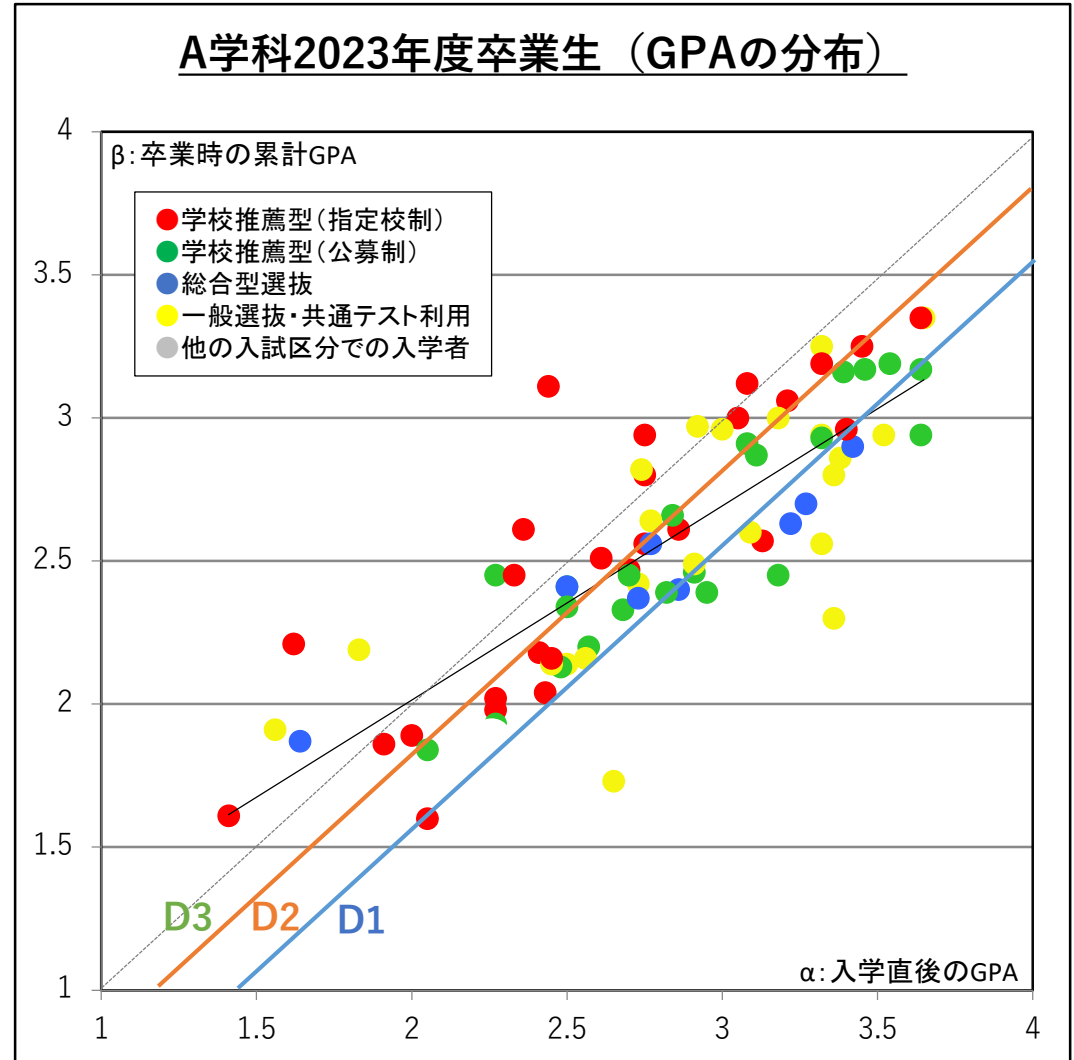


1 1 GPAの分布と変動の「見える化」



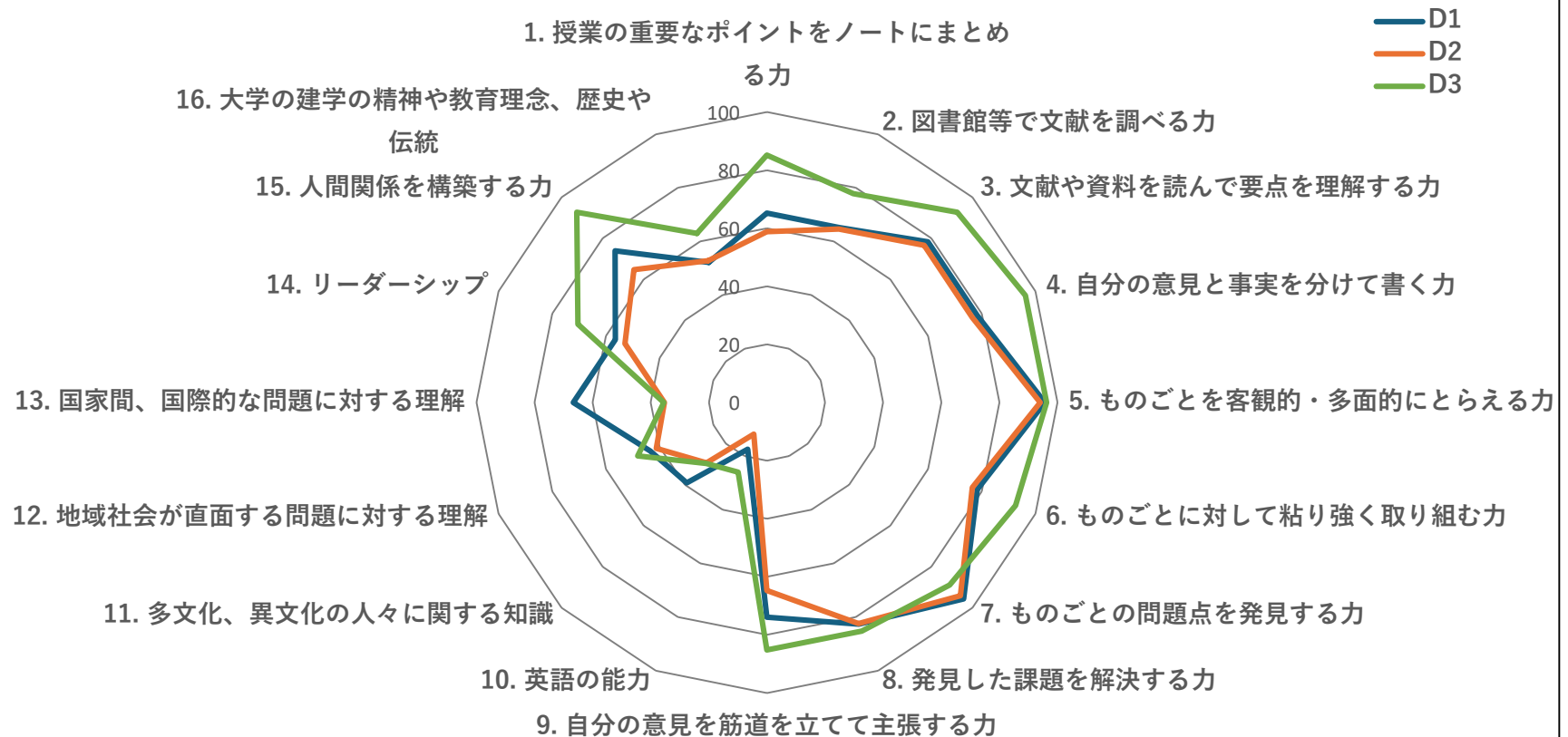
こちらでも昨年度、新たな分析方法として紹介しましたが、**2023年度から本格的に運用を開始し、各学科分を提供しています。**

- 横軸を入学直後のGPA (α)、縦軸を卒業時の累計GPA (β) とし、各学生の状況をプロットすることで、**学生のGPAの変化を「見える化」**したものの。
- 点線（45度線）より上の学生（ $\beta > \alpha$ ）は成績が向上、実線（回帰直線）より上の学生は、このコホートの平均モデルと比べ、成績が向上していると言えます。
- また、GPAデータと入試データを連動させることで、**入試区分ごとのGPAの分布と変動も「見える化」**しています。



1 3 成長実感から見えること③（GPAの変動との関係）

学生の成長実感（A学科2023年度卒業生4年次・GPA変動グループ別）



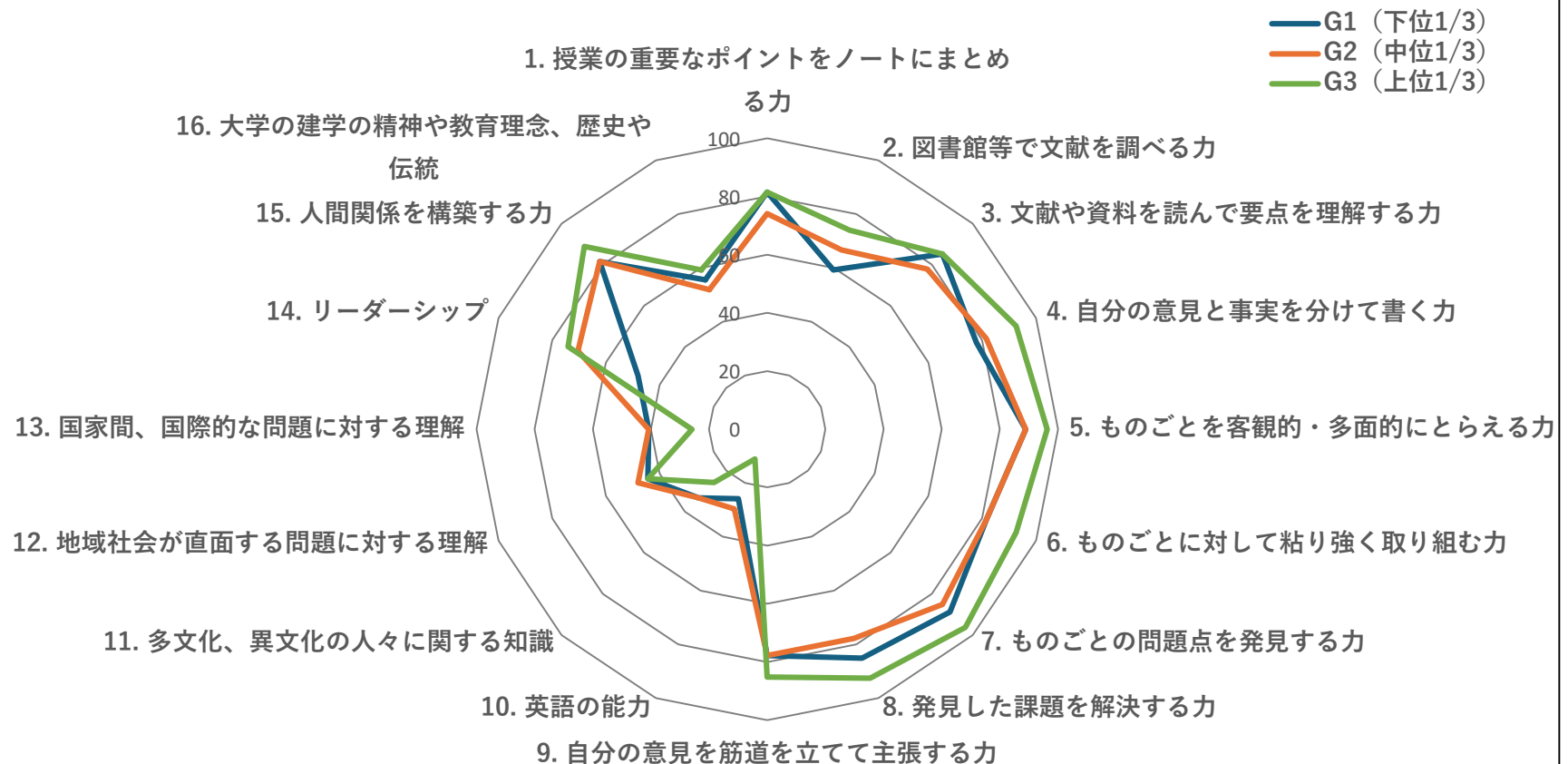
● 卒業時の累積GPAが入学直後のGPAより大きい方、小さくても差が少ない方が成長実感、特に大学で学ぶための基礎的な力の成長実感が大きいようですね。

1 4 成長実感から見えること④（卒業時累計GPAとの関係）



- なるほど。**卒業時の累計GPAでグルーピング**したものと比較してみると、やはり少し違いますね。
- いずれにしても、成長実感は、GPAと関係している可能性がありそうですね。

学生の成長実感（A学科2023年度卒業生4年次・累計GPAグループ別）

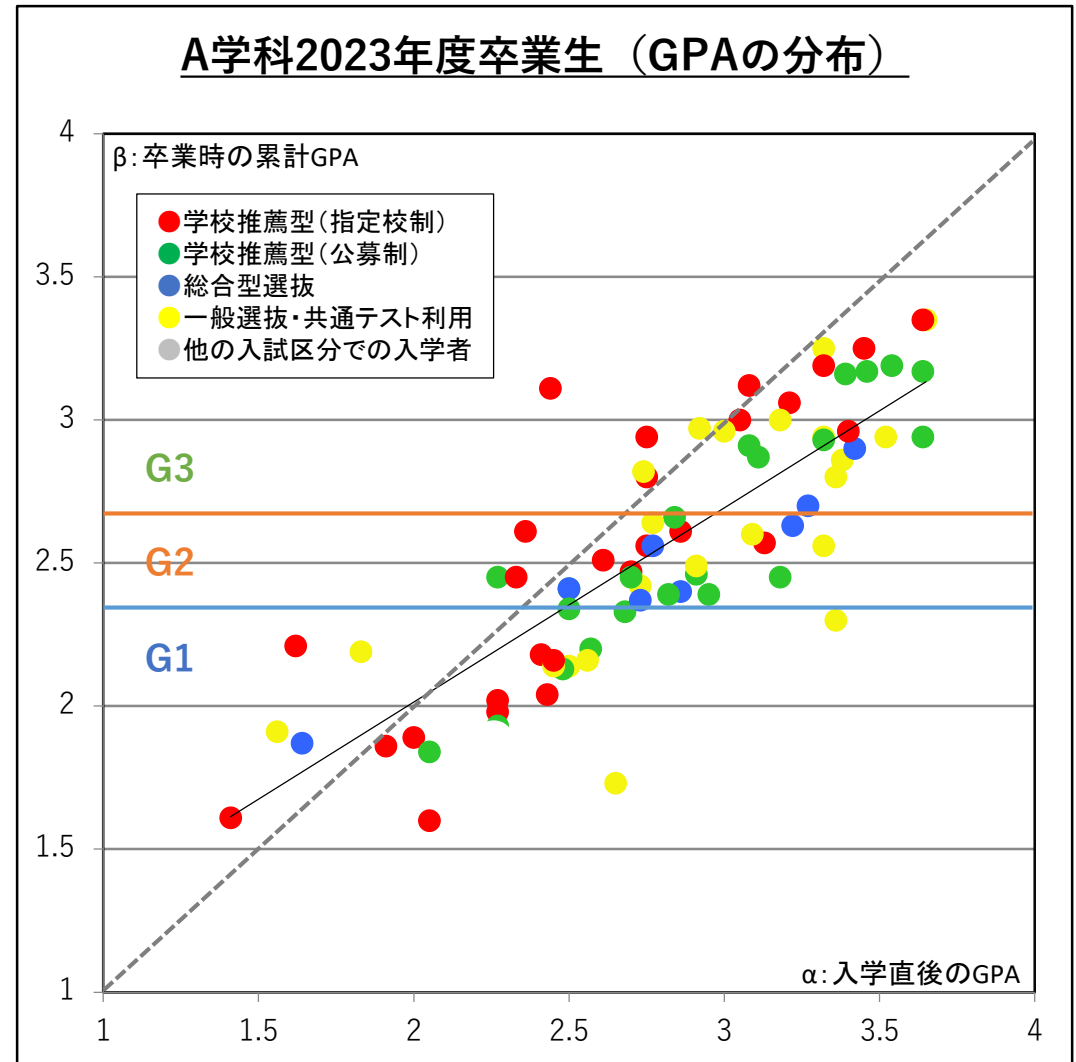


1 1 GPAの分布と変動の「見える化」



こちらも昨年度、新たな分析方法として紹介しましたが、**2023年度から本格的に運用を開始し、各学科分を提供しています。**

- 横軸を入学直後のGPA (α)、縦軸を卒業時の累計GPA (β) とし、各学生の状況をプロットすることで、**学生のGPAの変化を「見える化」**したものの。
- 点線（45度線）より上の学生（ $\beta > \alpha$ ）は成績が向上、実線（回帰直線）より上の学生は、このコホートの平均モデルと比べ、成績が向上していると言えます。
- また、GPAデータと入試データを連動させることで、**入試区分ごとのGPAの分布と変動も「見える化」**しています。

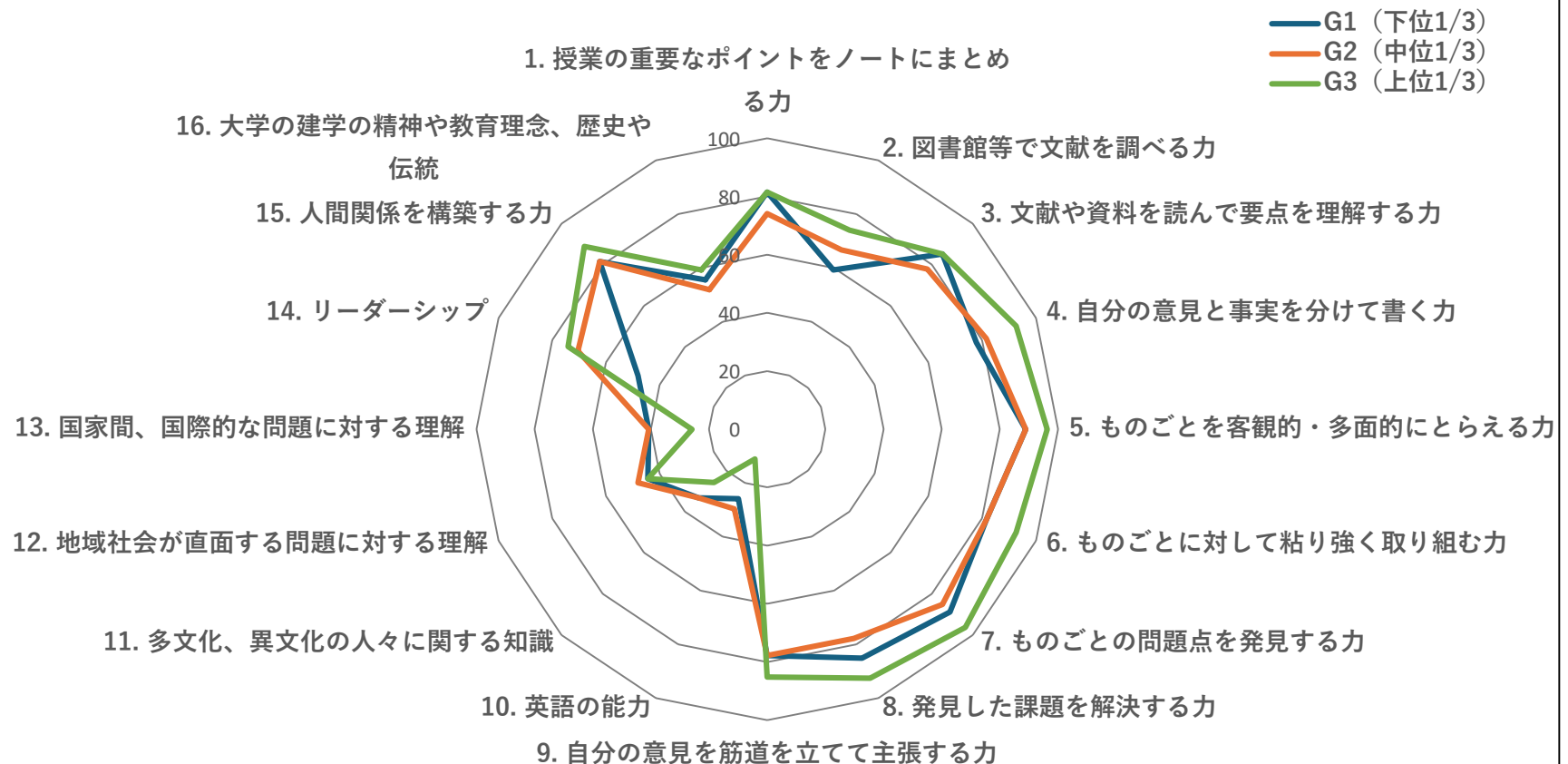


1 4 成長実感から見えること④（卒業時累計GPAとの関係）



- なるほど。**卒業時の累計GPAでグルーピング**したものと比較してみると、やはり少し違いますね。
- いずれにしても、成長実感は、GPAと関係している可能性がありそうですね。

学生の成長実感（A学科2023年度卒業生4年次・累計GPAグループ別）



15 ナビゲーターのまとめ



- 昨年度のまとめで、「**教学IRの分野の充実**は大きな課題です。今後、**ディプロマポリシーの達成度の可視化**が求められると思うので、その手法を考えたいと思います」とコメントしました。
- 今回は、次の2点を整理してみました。
 - ① 教学マネジメントとは何か
 - ② 教学IRにはどのようなことが期待されているのか
- DPの達成度の可視化の手法に関連して、本学で実施している学生アンケートの「**成長実感**」がその手法の**1つになるのではないかと**の観点から**深掘り**してみました。



- 教学マネジメントの目標は「**学修者本位の教育の実現**」ですから、「**学生がどのくらい成長したか**」を分析して可視化することは本当に大切ですよね。
- その思いから、学生アンケートの「**成長実感**」を深掘りして分かったこと（仮説段階ですが）があります。
 - ① 成長実感の一部は客観的な指標であるGPAと関係があり、**学生の自己評価には一定の信頼が置けると**思われること。
 - ② 大学での学びに必要なことが身についたと感じている学生は**GPAの面からも頑張っている**と評価できる傾向にあること。
- 他の学科の分析もして、さらに深掘りしたいなと思いました。